

フロンティアとしての IT 戦略ラストスパート

2004 年 9 月 10 日

村井純

「2005 年までに世界最先端の IT 国家とする」という目標を 2005 年までに達成しきることが重要である。最後まで気を緩めず、あきらめず、後回しにせず、ゴールまで全力で努力する！

1. 基盤

消費者への ADSL が世界一使いやすく（速く、安く）なったことは評価できるが、2005 年時点での世界最先端とは、信頼と安心のインフラで、かつ、モバイル、無線インターネットや RFID、地上デジタル放送、などを含んだ「ユビキタス環境」の基盤となるものでなければならない。そのためには内外への信頼でき、セキュリティレベルの高いバックボーンインフラの確立、新しい無線空間へのビジョンの確立と、それら推進のための基盤づくりなど、行政面での責任も大きい。

2. 成果

評価専門調査会での議論のように、利用者の視点による評価の「物差し」で「世界最先端」を達成しなければならない。その意味で IT 戦略はすべての分野が含まれていることを強く指摘したい。評価専門調査会での具体的な指標（これもたくさんの分野が示されている）とともに、2004 年の ITS 国際会議、2005 年の愛知万博、遂行中の「ようこそ JAPAN」政策など、IT 国家としての成果が実感される場としても重要な機会を有効に利用して、国内外のしっかりとした成果達成の指標としたい。

3. 世界

IT 国際政策が 2005 年に「世界最先端」となるためには、1) アジア地域でもっとも強力な貢献ができていることとともに、その表現を確立すること、2) セキュリティレベルの高い、安心して使えるインターネット環境、それらの形成への民主導、行政の体制、産官学の連携の最高の実績を持って関連国際機関、他の地域（ヨーロッパ、アメリカなど）に展開すること、3) 最先端であることを継続発展できる仕組みを作ること、が重要である。

4. 最先端でありつづける体制

フロンティアとして、新しい課題に挑戦し、その成果を持って世界に大きく貢献できる体制を確立する。